

2018 年度 学校自己評価報告書(法政大学第二中・高等学校)

教育理念・目標	<p>教育理念:本校における教育は、人格の完成をめざして国民的共通教養の基礎を築き、平和で民主的な国家および社会の形成者を育成することを目的とする。</p> <p>教育目標①:人類および民族のあらゆる分野における歴史的・文化的遺産を体系的に学び取り、自然と社会・人間に対する認識を深める。</p> <p>教育目標②:獲得した認識を総合し、自然との共生・諸民族の共同など、人類社会のもつ諸課題と向き合う視野を培う。</p> <p>教育目標③:学ぶことの意味と喜びを知り、常に学問的好奇心を発揮し、生涯にわたって成長を遂げることのできる土台を獲得する。</p> <p>教育目標④:自己を客観視し、社会の中でどのように生きるかを考える能力をつける。</p> <p>教育目標⑤:自己の諸課題の解決・現状の変革を担おうとする自主的精神と互いを尊重し共同での取り組みができる自治的能力を獲得する。</p> <p>教育目標⑥:高い品性と社会性を身につけ、不正・腐敗を許さず、社会正義を確立する自立の力を獲得する。</p>
----------------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、教育目標を達成するために生徒一人一人に高い学力をつけさせるための具体的実践の研究をする。 2、男女共学化3年目に際し、新たに表出する課題に対して対応する。 3、新図書館やICTを活用した教育の研究と実践を深める。 4、中高6ヶ年を視野に入れた生徒の自主活動を伸ばすための工夫をする。 5、法政大学・育友会(PTA)・同窓会・地域との連携を強化する。
-------------	--

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2019年7月6日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)	<p>法政大学の付属校として学園の一翼を担う自覚を入学当初から意識化させるために、例年通り、中学1年生「校外授業」、高校1年生「新入生合宿」など行事や、中学校1年社会科の授業を通じて、本校の建学の理念「自由」と「進歩」について大学史や二中高史の独自プリントを使用して学習を行った。大学との連携のなかで、高校1年生時に開催される「ウエルカム・フェスタ」を1つの動機付けとし、進路意識開拓にもつなげた。高校2年時、3年次に行われる法政大学学部学科説明会等においても、本校、そして大学の建学の精神についても触れながら実施した。</p>				<p>充分取り組みがなされていること評価する。</p>
2	組織運営	<p>全教員による組織的討議にもとづいて教育方針を定め、これに沿って実践を進めるとともに、定期的に振り返りを行う。中間点検を挟み、年度末に1年間の教育活動を総括し、導き出された教訓を次年度に向けて方針化しながら教育実践を進めていくことは組織運営の原則であり、本校の在り方を支える根幹であることから、このサイクルを堅持していく。</p> <p>本年度においても当初の予定通り、教員会議を通じて方針を定め、中間点検で実践の到達状況を確認し、年度末に総括を行い次年度方針の確認・共有と実践のための意思統一を図ることができた。また、「教員の働き方」ともかわり、教員会議の運営の在り方についても検討を行った。</p>				<p>学校による組織的運営は十分に機能していると感じる。</p>
3	教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)	<p>教科教育においては、学校改革の一環として、「教科教育における6カ年体系化」の中長期計画に基づき、中高全学年で新カリキュラムを施行した。学習内容の精選・体系化とともに、学習方法についても活動型の学習を大きく位置づけ、他者と協働しながら思考力・表現力を培う実践を進めた。学力向上に資するカリキュラムの再構築と実践を展開し、学力の到達状況に応じて特別指導や課題設定などの学習支援を継続した。こうした取り組みを通して、法政大学推薦に値する学力へ到達させることに努めた結果、各教科目の学力到達度、および法政大学への推薦率について前年度の水準を維持することができた。来年度も、学校コンセプトである「調べ、討論し、発表する」教科活動の一層の充実に向け、ICT機器や学習情報センターとしての図書館を活用した教科活動を推進する。</p> <p>生活指導においては、中高ともに共学化が完成して、「新しい学校」としての生徒実態の把握に努めた。「中・高6カ年の生活指導の体系化」をはじめ、生徒の学校生活の様々なルールを明確化して、生徒への周知徹底に努めた。「クラブ再構築」をもとにした、女子生徒を含めた共学化での3年目のクラブ活動においては、改善課題の把握と環境整備に重点を置いた。新入生(中1、高1)については例年と同様に多様化する生徒実態に対し、校外授業(中1)や新入生合宿(高1)を通じて、個別的な生徒実態把握に努め、他学年については前年度の学年との連携の中で個別的把握を行い、以降の指導の手立てに反映させた。</p>				<p>大学進学を見据えた長期的な教育計画がなされていると思う。</p> <p>全教科を通じて、他者と協働しながら思考力、表現力を培う活動型の学習に重点が置かれており、新カリキュラム実施に取り組んでいると考える。</p>

4	<p align="center">安全・保健管理 (保健、安全、防災、施設等)</p>	<p>例年通り、定期健康診断・体力測定(スポーツテスト)を実施した。その結果と分析を返すことで生徒は自分の体力や健康状態を知ることとなり、さらには健康への認識を深めるようになった。AEDは学校内に13カ所設置しており、どこに設置されているかを理解させる取り組みを行っている。夏休み前には教職員対象及び生徒対象(各部の代表者)の安全講習会を実施し、救命救急について学んでいる。さらに授業でも心肺蘇生法や救急法について学んでいる。また近年増加しつつある多方面の問題に対処しなければならない生徒、保護者のためにカウンセリングルームを充実させ、必要な連携が取れる体制を作っている。障害者差別解消法の施行に伴い、今年度も「合理的配慮」の理解を進め、その対応を進めた。</p> <p>避難訓練については、「火災時の避難経路の確認」「大規模地震発生時の防災用品の配布確認」「大規模地震発生時の対応」に関わって合計3回実施した。避難時の注意事項の確認・徹底も行い、整然と実施することができた。次年度は教科の授業中や休み時間の訓練も視野にいて、より実践的な訓練に取り組んでいきたい。また、継続して大規模地震発生時の対応について検討を深めたい。</p>	<p>安全衛生、人権啓発、防災に関し、学校が一体となって鋭意取り組むことにより、学校内の全ての関係者に対する高い認識感の醸成に寄与できていると考える。</p>
5	<p align="center">連携 (保護者、卒業生、地域等)</p>	<p>保護者との連携では、育友会(PTA)との連携を基礎に、育友会理事会の円滑な運営に寄与した。中学高校と別組織だった育友会が統一されてから3年目となる2018年度においても、意見交流を大切にしながら、一つ一つ確認をするなかで連携を図ることを重視した。また、「育友会集中ミーティング」において、昨年度同様に学校と保護者の意見交換が成された。定期的に育友OB会、白塔会(中学保護者OB会)との連携も行った。日常的な保護者連携としては、各学期に開催される保護者会やクラブ保護者会を軸に、クラス担任、養護教諭、カウンセラーを中心に、各学年がチームとなって生徒個々の実態把握と対応を行った。</p> <p>卒業生との連携では、同窓会を中心に行った。また監督コーチ懇談会についても例年通り開催し、クラブ指導の方針について共有につとめた。次年度は、これまで開催してきたこの監督コーチ懇談会をより深める形で、クラブ指導者研修会に改める予定である。生徒の健康・安全・成長をより深める指導ができるように指導者としての学びの場をもつ予定である。進路指導においては、OBを招き、進路講演会を実施した。</p> <p>地域等との連携では、「地域に愛される法政二中高」をめざし、地域の方々からお寄せいただく各種ご意見への対応につとめた。さらに学期末ごとに生徒が行う地域清掃ボランティア(各部の部員が中心となって取り組む)、吹奏楽部による地域のお祭りへの参加、教員による年5回の登下校路上指導を行った。また二中文化祭・二高祭に於いては、地域の商店街と話し合いを持ち、7店舗に出店していただいた。年度末(3月)には、吹奏楽部による演奏会を開催し、地域の方々にも開催についての案内をした。</p>	<p>育友会を中心とした保護者との連携については、的確なタイミング、的確な頻度で行われており、また、地域貢献活動についても積極的に行われ、地域に愛される学校として適切に運営が出来ていると考える。</p>
6	<p align="center">大学との連携</p>	<p>法政大学と三付属校とが協同して取り組んだ「ウエルカム・フェスタ」は、今年度で6回目となり、市ヶ谷キャンパス、外濠校舎で開催された。三付属校の高校1年生全員を対象に、高校の学習意義を明確にし、大学との学びの違いを意識させるための講演会と「法政大学の歴史」「学生生活」について学ぶための学生企画を全体会として行い、その後、7会場に分かれ学生・大学院生による具体的な「学びのモデル」の紹介を行った。取り組みの全体を通じて、これから3年間を過ごす、高校での「学び」の位置づけについて考えさせることをねらいとした。また、今年度も同時開催した保護者向けプログラムでは、薩埵ホールでの全体会の後に大学生を巡る就職状況、高校生から大学生そして社会人へと成長していく子と親との関係についての講演が行われ、好評だった。</p> <p>夏休み期間に開催された「One-Day Science College in Koganei Campus」は、今年度で4回目となった。小金井キャンパスにある理工学部、情報科学部、生命科学部の3つの学部が高校生に向けて最先端の研究・技術を体験してもらう企画として、理系分野に興味関心の高い生徒が参加した。今年度は高校1年生～3年生の26名が参加したが、大変充実した取り組みとなった。また、今年度は初めての取り組みとして、イングリッシュ・キャンプが夏休み期間中2泊3日で多摩キャンパスにて行われ、参加者14名は英語による合宿を体験することができた。</p> <p>高校3年生は6月に各学部より大学教員を招いて進路講演会、高校1年生は3学期に社会人進路講演会をそれぞれの成長過程に合わせて開催してきている。高校3年生では大学各キャンパスでのゼミ見学会も7月に行われ、生徒の進路選択の機会の一つとなっている。高校2年生では3キャンパスの大学職員を招いて、キャンパス・学部説明会を実施し、キャンパスや学部について考える契機とした。「3年3学期プログラム」の取り組みでは、学部毎のクラスに分かれての「テーマ研究」を行っている。課題文献の紹介や研究テーマについての大学教員、大学院生からの助言指導と各学部での入学前教育(ガイダンス)などで大学の援助を受けている。また、総長杯英語プレゼンテーション大会が実施され、2組が参加し、審査員長特別賞を受賞した。</p> <p>今後、さらに取り組むを通じて高大教員の交流、協同の広がる可能性がある。</p>	<p>10年一貫教育の方針に則った各種取り組みは、法政二中高の魅力であると考えられる。</p> <p>在学中に授業体験やキャンパスツアーなどがあり、進路を考える上でもありがたい。</p>

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2019年7月6日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	新校舎グラウンド・外構整備	<p>新校舎ならびにグラウンド・外構を含めたキャンパス全体の竣工から2年目を迎え、前年度に引き続いて活用の在り方の検討と実際の運用状況についての把握・検証・調整等を進めた。また必要に応じて施設・設備の検査を実施し、法人内の関係組織・関連業者の協力・連携により、無事故かつ生徒・教職員の安全・安心な学校生活を第一とした点検・対応を行うことができた。</p>				<p>新設備は生徒の学園生活を充実させていると思う。安心安全は今後もご配慮頂きたい。</p>
2	入試広報	<p>2018年度は中高共学化が完成した年度となり、共学化によって変化した本校の様子を対外的に求められる一年となった。広報活動については、2017年度同様“この学校でどのように成長できるか”というストーリーイメージを明確に伝えることをコンセプトにした。学外での各種説明会・相談会へ積極的に参加し、二中高教育の中身や入試制度についての正確な理解を促すために、丁寧な説明を心掛けた。学校説明会では本校の教育をわかりやすく伝えるだけでなく、受験生・保護者の共感を生み出すことを大切にしたい。在校生・保護者・卒業生にも協力してもらい、本校の教育の魅力をそれぞれの立場でアピールすることができた。文化祭でも育友会と連携し有為な広報活動を展開することができた。入試活動については、中高共に安定した志願者数となり、適正な選抜方法によって、適正な人数の入学者を確保することができた。今後は本校の教育の中身をより具体的にアピールしていくことが大切となる。その方法については継続的な検討を重ねながら、積極的に入試広報活動を展開していきたい。</p>				<p>入試広報活動のコンセプトは十分伝わっていることを評価したい。</p>
3	新制服の制定	<p>2016年度に検討が始まった女子生徒のオプションサマースカートについて、2018年度より着用がスタートした。今後は、制服の適切な着用について、丁寧な指導を行っていききたい。</p>				<p>着用に関して問題ないと思う。</p>
4	2018年度学校構想(国際交流の推進)	<p>国際交流の推進に向け、昨年度に引き続き諸活動を展開した。姉妹校オレワ・カレッジとの交流における長期留学制度、および本校独自のカナダ研修は2年目の展開を無事に終えることができた。また学内での国際交流の基盤となる生徒組織と連携した国際交流委員会の活動も、物資支援とそのため募金活動など、新たな活動を展開した。あわせて、本校への長期留学生を迎え、様々な交流活動を実施することができた。本年度は、インドネシアのラッフルズ・クリスチャン・スクールおよびスウェーデンのミカエル・エリアス高校からの生徒受入を行った。</p> <p>一方高大連携の観点から、法政大学台湾教育センターと連携し、昨年度に引き続き瀛海(インハイ)高級中學受け入れを実施した。歓迎行事や授業体験など、学内関係諸組織と連携しながら行うことができた。</p>				<p>国際交流は評価できる。</p>